

2011年11月号

通巻 575号



圓環

発行所 生長の家ブラジル伝道本部

発行人 村上真理枝





せんけん めい まつだ せんせい
 「先見の明があった松田先生」

せいちょう いえ きょうかそうちよう むかい よしお
 生長の家ラテン・アメリカ教化総長 向 芳夫

がっしょう
 合掌ありがとうございます。

ブラジルにおける生長の家の大開拓者である

まつだ みよし せんせい せいねんとうじ せいめい じっそう
 松田巳代志先生は、青年当時『生命の実相』に
 ぶ いのち か く だいじ ぎょう
 触れ、これこそ命を掛けて悔いのない大事業で
 ある事を自覚されてひたすらその目的実現に
 まいしん き じゆく にほんほんぶ ねんかん
 邁進され、やがて機が熟し日本本部で一年間
 けんしゅう き はくご れんせいどうじょうけんせつ ぜんせいこん
 研修されて帰伯後、練成道場建設に全精魂をか
 けて携わり、1955年3月2日に道場の落成式
 が挙行された模様のご著書『光は国境を越えて』
 73ページに次のように書かれております。

ぜんりやく われ こうけいしゃ わか せいねんしよくん
 (前略)「我らの後継者である若き青年諸君

たち あか きぼう しんねん も にんげんかみ こ
 達に、明るい希望と信念を持たせ、人間神の子
 の誇りを持って伯人社会に伍し、日系人として
 かんぜん じゅうぶん かつどう いただ こと おも
 完全、充分なる活動をして頂く事にあると思う
 のですが、そのために助力させて頂きたい
 のですが、青年道場の持つ使命の一つであります。

だい いっぽ すず おし よ
 その第二は、一歩進んで、このみ教えに依っ
 て自己内在の神性を自覚し、生の歓喜に満たさ
 れた、青年諸君が、御教えの持つ世界的大使命、
 いわゆるじんらいこうみょうか ちじょうてんごくけんせつうんどう えら
 所謂人類光明化、地上天国建設運動の選ばれた
 れい せんし じかく さ おのれ ぐ ゆう
 る霊の選士としての自覚に醒め、己に具有する
 ところ につけいはくじん けんり し かく とくい
 所の日系伯人としての権利と資格をもって得意
 とする伯語を縦横に駆使し、伯人社会に光明
 し そう きよひ てん にっぽつくりようこくみん
 思想の炬火を点じ、日伯両国民の、ひいては
 なんべいぜんどう こうみょうか い が い だい かつどう
 南米全土の光明化に生き甲斐ある偉大なる活動

てんかい いただ せいねんどうじょう
 を展開して頂きたいというのが青年道場のもつ
 きゅうきよく べ し めい こうりやく
 究極ともいう可き使命であります。」(後略)

どうしょ つぎ か
 さらに同書、79ページには次のように書か
 れております。

ぜんりやく どうじょうおよ せいねんぶ つぎ いろ
 (前略)「道場及び青年部では次のような、色
 けいかく かんが お しょくぎょうがっこう せつ
 んな計画が考えられて居ります、職業学校の設
 りつ び れんせいどうじょう けんせつ しゅつぱんがいしゃ
 立、ポルトガル語の練成道場の建設、出版社社
 にち せい とく び ひつよう
 (日、ポ、西、特にスペイン語は必要でありま
 す)等々であります、必ず神の導きに依りよ
 などなど かなら かも みちび よ
 りよき姿で建設されるものと信じて居ります。」
 こうりやく
 (後略)

ねんまえ まつだ せんせい ところ なか
 56年前、松田先生の心の中にこれらすべて
 えが
 が描かれていたのです。

ことし がつ にち がつ か
 今年8月30、31日、9月1、2、3日の5
 か かん わた れんせいどうじょう せいご けん
 日間に渡ってサンタ・テクラ練成道場で西語圏
 しょこく こく めい かんぶ こうし せいねんなど
 諸国11カ国から422名の幹部講師青年等が
 さんか び れんせいかい せいだい きょうこう
 参加してスペイン語による練成会が盛大に挙行
 げんざい こく しょ れんせい
 されました。現在ブラジル国には5カ所に練成
 どうじょう けんせつ
 道場が建設されており、すでにミナス・ジェラ
 しゅう けんせつちゅう しょうらい しゅと
 イス州に建設中であり、将来は首都ブラジリア
 き かく げんじょう み
 にも企画されているという現状を見ますとき、
 だいせんばいまつだ みよし せんせい なら せいぜんこうみょうかうんどう
 大先輩松田巳代志先生、並びに生前光明化運動
 ていしん かたち さいえん
 に挺身された方達の霊的支援のおかげである事
 つよ かん
 が強く感じられます。

さいがっしょう
 再合掌

「大聖師に学ぶ」



せいちょう いえ でんどうほんぶ りじちよう むらかみ まり え
生長の家ブラジル伝道本部理事長 村上真理枝

がっしょう
合掌、ありがとうございます。

ことし がつ にち だいせいし たにぐちまさはるせんせい せいたん
今年の11月22日は大聖師谷口雅春先生ご生誕
ねん とし でんどうほんぶ せいだい せいたん
118年の年であり、伝道本部では盛大にご生誕
き ねん しまてん かいさいいた しきてん のぞ
記念式典を開催致しますが、この式典に臨むと
きにいつもおもふことは、大聖師がゆうきあるご決意
をされて「自分はいま生長の火をかざして人類
の前に起つ。起たざるを得なくなったのである。
とも たす どうし われ どう せいちょう
友よ助けよ。同志よ吾に投ぜよ！」と「生長の
いえしゅつげん せいしん とそのじぎょう」をご発表され、人類
こうみょうかうんどう なまえ せいちょう いえ うんどう はじ
光明化運動の名前で生長の家の運動を始められ
たそのご意思をわれわれの意思として、希望と
し めいかん にもえて、つぎ せ だい つぎ せ だい ひ
使命感にもえて、次の世代、また次の世代へと引
きつ 継がなければならないせきにんかんをひしひしと感
じるのであります。

たにぐち まさはるせんせい ひ しょ ねん やま
谷口雅春先生の秘書として1935年よりお山
（谷口先生のお宅）でお仕事をされた山口悌治氏
はそのご著書「中のこころ」に、谷口雅春先生の
み じか しんしゃ にご ふうぼう はくせきせいちょう
身近に親炙してあの御風貌のような白晝清澄な
ふんい き つつ く よる つづ
雰囲気包まれて暮らす喜びを綴られております
が、先生のおそばにてさりげないたんたん ひび
淡々とした日々
のせいかつ ふ とう いわ やまぐちこうし こころ
のご生活から、不動の巖のように山口講師の心に
のしかかってきたものはとりわけ次の三つのもので
あったとのことであります。

その一つは、三時のおやつの時間のことでありま
した。どんなに話が面白く興味深く運んでおって
も、ふん ぶんた せんせい しず せき
15分か20分起ちますと、先生は静かに席
を立たれて、話は残った人たちにまかせて書齋へ

い 行ってしまわれるのでした。そろそろもう時間だ
よとは一言もおっしゃらず、ニコニコ笑いながら
いわれたそうです。ふ ふう はなし
普通でしたら、話がはずんで
じ かん す わす こし お つ
時間が過ぎるのも忘れ、腰を落ち着けたがるもの
であり、そのため ほどおお ゆうけいむけい せんしつ
にどれ程多くの有形無形の損失や
めいわく かざ
迷惑を重ねているかわからないのであります。

その二つは、先生はお茶が大変お好きでいらっ
しゃったそうですが、そのお茶も、飲んでいい
とき の 飲んでいいところなければ決してお飲みになら
なかつたということでした。しよさい し ごとちゆう
書齋では、お仕事
は決してお飲みになられなかつたことでありま
す。ふ ふう し ごとちゆう ちゃ おも
普通でしたら、仕事に、お茶ぐらいと思っ
てしまいますが、せんせい
先生にはまったくそれがおあり
にならなかつたということでありました。

その三つは、お食事のとき、じょちゆう しょくじ
女中さんが「お食
事でございます」とあんない こ ひび
案内に来られますと、まるで響
きがこえ おう で
声が声に伝わるように、スーッと出てこられるこ
とであります。おくさま じょちゆう しょくじ じ かん
奥様や女中さんは、食事の時間に、
いまいただ いちばん いただ あんない
今頂いたら一番おいしく頂けるというときに案内
されるわけですが、その食事を整える人のことを
おも て ふで そくぎ お た
想い、手にしておられる筆を即座に置き、サッと立
ちになってしょくどう む
食堂へ向かわれたということでありました。
だれ みないちおうし つ あ わ
誰も皆一応知り尽くしている当たりまえの、分か
りきつたことではありますが、みこころ せいかつ
御心のままなる生活
というものがどんなものであるか、ということ
を たにぐちまさはるせんせい みつ おこな わたし
谷口雅春先生のこの三つの行いによって私たちは
まな さいはい
学ぶことができるのであります。 再拝

ジュニア見真会 — 日語ジュニア部



「夢を抱き、一生懸命努力してその夢を実現する」



2011年8月20日～21日に、イビウーナ南米練成道場で、「夢を抱き、一生懸命努力してその夢を実現する」というテーマで、ブラジル生長の家青年会主催の日語ジュニア部練成会が開催された。

愛情をもって、そして献身的に練成会の指導を行ったのは、担当講師の山崎賢一地方講師・教化員、担当補佐のヘージス・ヨシオ・シマノエ光明実践委員、ダニエウ・ルイス・ダ・シウヴァ光明実践委員、レチツシア・エミ・フジワラ・ヤマダ光明実践


委員、そして特別招待講師のリリアン・スージ・バッフィ・ノリマツ本部講師補であった。

二日間の練成会で、218人のジュニア参加者を対象に、「夢、理想、家庭調和、様々なかたちの愛、神想観、社会を変えるジュニアになるためには」等、この年代にふさわしいテーマの講話が行われた。

講話の合間に、練成会の実行委員はゲーム、レクリエーションなどを企画し、ジュニアはお互いに打ち解け、友情を再確認したり新しい友情を築いたりした。

岡塚

れんせいかい さいごのひと
練成会の最後のプログラムの一つに、
さんかしゃ えんだん あ けつい はっぴょう
参加者が演壇に上がり、決意を发表する
じかんがあつた。「もっとよいむすこ
のために努力する」、「もっと勉強に打ち込む」、
せいちょう いえ うんどう せつぎよくてき さんか
「生長の家の運動にもっと積極的に参加し、

こうみょうじっせんいん
光明実践委員になる。そして講話を通して、
きょう わたし しあわ しょうらい ていきょう
今日の私の幸せを将来のジュニアに提供す
る」等の決意が表明された。これらの決意
から、れんせいかい もくてき たつせい かくにん
練成会の目的は達成されたと確認で
きた。 



せい ねん けん しん かい にち ご せい ねん ぶ
青年見真会 ー 日語青年部

じん せい し た えが
 人生をドラマに仕立てて、シナリオはあなたが描く



ドラマには多くの争い、笑い、涙、出
 いや別れがあるが、最後はハッピーエン
 ドに終わる。ブラジル生長の家青年会は、
 去る8月20日～21日、イビウーナ練成
 道場で行われた日語青年練成会で、この
 真意を伝えた。

それぞれの講話はドラマの一話に相当し、
 担当はエニオ・マサキ・ハラ本部講師、リ
 リアン・スージ・バツフィ・ノリマツ本部
 講師補、ホベルト・オキト・フジワラ講師、
 ヘージス・ヨシオ・シマノエ光明実践委員
 によって指導され、「真の友、生涯の同朋」
 「偉大な夢を描き、その実現のための努力」

りょうしん む げん あい など こうわ おこな
 「両親の無限なる愛」等のテーマで講話が行
 われた。

イビウーナ練成道場での練成会の初参加者
 は約30人だった。青年たちは「人間は神
 の子である」というみ教えを、身をもって
 体得し、喜びと感謝の心で練成道場を後に
 した。

日語青年練成会は日系人の青少年を対象に
 した、生長の家のみ教えを学ぶ練成会であ
 り、そこでは講話はポルトガル語で行われ
 るが、祈りや聖歌斉唱等は日本語で行われ
 る。

(ブラジル青年会ティーン対策部・部長
 ヴィニシウス・ダ・ホッシャ・カルヴァーリヨ)



第7回ブラジルの奴隷化された人々の諸霊 (黒人及びインディオ) 対象の慰霊祭 第49回拓人の聖塔慰霊祭及び世界平和の祈り



祭司を務める向芳夫本部講師

挨拶を述べる寺前継雄講師



← Prof. Yoshio Mukai realiza a cerimônia.
↑ Prof. Tuguio Teramae - vice-pres. da Seicho-No-Ie, dirige palavras aos participantes

ブラジル独立記念日にあたる2011年9月7日、イビウーナの丘は平和を讃える千人以上の人々によって埋め尽くされた。拓人の聖塔慰霊祭及び世界平和の祈りは午前中に執り行われた。この儀式の由来について、向芳夫ラテン・アメリカ教化総長は次のように説明した。「1963年、松田巳代志先生が谷口雅春先生に、ブラジルにおける生長の家の先駆者の慰霊塔を建設し

たい旨を伝えたと、生長の家の先駆者だけでなく、この壮大な国の建設のために貢献したすべての民族の功績を讃える塔を築くべきだというご指導をいただいた」。拓人の聖塔はブラジル宝蔵神社の横に建設され、1963年8月28日に落成式が行われた。その後、拓人の聖塔慰霊祭は毎年同じ場所で行われている。慰霊祭終了後、寺前継雄ブラジル生長





↓先祖がインディオのルシアナ・クルス・ダ・シルヴァ
descendente de índios
Luciana Cruz da Silva



↑インディオ代表
カカ・ジェクペー氏
escritor e ambientalista
Kaká Werá Jecupé

の家副理事長はあいさつで次のように述べた。「ブラジルではすべての民族が仲良く暮らしており、これは他の国にとってもお手本となる事柄である。ブラジルで生まれ、ブラジル人としてこの国に暮らすことは、神からいただいた偉大な恩恵である」と話された。

午後からの第7回ブラジルの奴隷化された人々の諸霊（黒人及びインディオ）を対象にした慰霊祭について、フェルナンド・アントニオ・メンデス・マルケス本部講師は歴史的データを用いて、「約4世紀続いたブラジルの奴隷制度では、約490万人のインディオが命を落とし、約400万人の黒人奴隷が非人道的な扱いを受けた。この慰霊祭では、深い愛と感謝の意をこめて、この国の基礎を築いた彼らのために、真理の言葉を捧げましょう」と参加者に呼びかけた。

インディオを代表してあいさつしたのは、作家であり、環境保護活動家でもあるカイアポー族のカカ・ウェラー・ジェクペー氏である。彼はポルトガル人や他の

民族の男性と、女性インディオとのあいだに生まれた混血児である。

当時、混血児は奴隷として扱われたため、インディオとしてのルーツを隠す必要があった。そこでジャクペー氏は「彼らの魂はただに、自分のルーツを否定したことに對する罪悪感を抱いているに違いない。しかし今日ここで祈りの言葉によって、彼らは全員許されたということを自覚したに違いない」と話した。最後に、インディオの歌と一緒に歌うよう、参加者に呼びかけた。

午後の慰霊祭の最後に、寺前講師は、数世紀にわたる奴隷制度の維持はほとんどの文明に共通していると指摘し、それは他人を征服したいという人間の本能のあらわれであると話した。そして、「本日、我々がここにいるのは、第一に、我々は神の子としてみな兄弟姉妹だということを、生長の家で教わったからである」。慰霊祭の尊い意義を述べ、慰霊祭は終了した。

だい かい こども かい し どうしゃ けん しゅう かい
第 14 回子供会指導者研修会



↑ たかはししんじ ほんぶ こうし
 高橋信次本部講師
 palestrante prof. Sinji
 Takahashi



↑ ワークショップの風景
 Workshop

→ ちゅうおう うた ダンスの振
 り付けを楽しむ参加者
 lideres do kodomo-kai -
 momento de descontração



こども かいし どうしゃ しゅうかいが さ ねん
 子供会指導者研修会が去る、2011年
 がつ にち でんどう ほんぶ べっかん かいさい
 8月27日に伝道本部別館にて開催され
 た。指導に当たったのは、たかはししんじ ほんぶ
 高橋信次本部
 こうし うちだ しずか こうし
 講師と内田静香講師。

だい こうわ たかはしほんぶ こうし こどもかい
 第一講話で高橋本部講師は、子供会そ
 して子供の指導の重要性について次のよ
 うに語った。

「せいちょう いえ きょういく こども うち しんせい
 生長の家の教育は子供の内なる神性
 を引き出す教育であって、押し付ける
 きょういく こども きょういく ははおや たいない
 教育ではない。子供の教育は母親の胎内
 にいる時から始まっている。

にんげん う とき ぜんせ わす
 人間は生まれた時、前世のことは忘れ
 ているので、もう一度全てを学ばねばい
 けません。その為、われわれが指導にあ
 たらないといけない。

せいめい じっそうだい かん うち
 生命の実相第4巻には、われわれの内
 にはかぎ のうりよく、そな おやまた
 には限りない能力が備わっている。親又

こどもかい し どうしゃ しんり り かい
 は子供会の指導者がこの真理を理解すれば、
 こども ただ ほうこう みちび で き ただ
 子供を正しい方向へ導くことができる。正し
 く導くことによって、こども じんせい
 子供は素晴らしい人生
 を送ることができ、いだい にんげん
 偉大な人間になる。

にんげん みな あい ほ
 人間には皆、愛されたい、褒められたい、
 みと めめられたい、じゆう やく た
 認められたい、自由になりたい、役に立ちた
 い思いを持っている。これらを正しく伸ばし
 て上げるのが、こどもかい し どうしゃ しめい
 子供会の指導者の使命であ
 る。ただ し どう た め こども かみ こ
 正しく指導する為には、子供を神の子と
 して認めることが必要である。」第一講話の
 あと、プレジデント・プルデンテの後藤清美さ
 んの体験談で、じもと こどもかい にんずう へ
 地元の子供会の人数が減った
 ため、かてい ほうもん おこな こどもかい ひ
 家庭訪問を行ったり、子供会の日
 はこどもたち おく むか おこな あいだ にんず
 子供達の送り迎えを行ったりする間に人数も
 増えてきたと話された。そして同じくプレジ
 デント・プルデンテのつのだ
 角田ローザさんはまず、
 こどもかい し どうしゃ みな かんしゃ ことば つた
 子供会の指導者の皆さんに感謝の言葉を伝

え、御自身も幼いころ子供会にお世話になり、今ではその御恩返しのつもりでお手伝いをさせていただいている、と話された。

次いで、加藤恵子対策部長は「子供会の指導について」のオリエンテーションを行った。

ご自身の経験を話され、子供会を始めたころは娘さん3人とお友達の娘さん2人、計5人だけの子供会であった。一時止めようとも思った時があったが、いろいろの方から励ましのことばや祈る大切さを教えていただき、今日まで続けることができた。

たとえ小人数であっても種を蒔けば必ず実り、それがまた広がっていく。

子供の指導はけっして楽ではないが、子供達こそがこのみ教えを伝える将来の後継者であると力強く語った。

昼食後は子供会で応用できる歌、ダンス、ワークショップなどの指導があった。指導者の皆さんは一瞬子供に帰ったような気持ちで楽しく体を動かした。

次いで、「子供会の重要性」について内田静香講師が講話を行った。

まず子供会の指導者は沢山の子どもを預かり、子供達の神性を引き出し、愛を与えて下さることに感謝の言葉を述べられた。1988年に地元で日語の子供会を結成された。そのきっかけは地元生長の家のポ語の子供会を見学したとき、非日系人の子供たちが祈りや歌などを日本語で行っていたことに驚き、なぜわれわれ日系人は日語で行わないのかと思い早速行動に移した。10年間

子供会の指導に当たり、魅力ある楽しい子供会を行うよう心掛けた。

指導者は神様から選ばれた人である。子供達は皆神の子であることを信じ、無限力の持ち主であることを自覚させる指導にあたる大切さ、そして、最近には特にがつこうせんせいやお友達を尊敬する意識が薄れてきている。其中で子供会の集まりで生長の家の真理を伝え、相手を神の子として尊重し、親に感謝、先祖への感謝の大切さを伝えるのが指導者の役割であると語った。

最後の結語は高橋信次本部講師が行い、講話で次のようなことを話した。子供たちは一度聞いたりしたことは必ず潜在意識に残る。子供会を卒業した後も人生に迷った時、または行き詰った時には必ず子供会で教わったことを思い出すに違いない。

高橋講師は2、3年子供会の指導に当たったが、仕事の関係で、離れることになった。当時のもう一人の指導者一村上真理枝本部講師はそのまま続けられた。今ではブラジル生長の家の理事長でもあり、ブラジル全国を始め、南米諸国の指導に当たっていると話された。

高橋講師ご自身も今日、このようにして講話や指導をされるようになったのも子供会で指導者として得た経験のお陰であるに違いありません。

今回の研修会は実りあるすばらしい研修であった。

第2回ジュニア会指導者・対策部長養成研修会



↑ discussão em grupos
→ Coordenadores



↑ たかはししんじ ほんぶ こうし prof. Sinji Takahashi
← じつこういん みなさま / 実行委員の皆様 / グループディスカッション

去る8月28日、生長の家伝道本部別館にて、生長の家青年会日本語ジュニア部主催の第2回ジュニア部指導者研修会が行われた。

担当講師は、80年代に発足したジュニア部初代部長の高橋信次本部講師が指導にあたった。高橋本部講師は講話で、ジュニア世代にとって、そして生長の家の運動にとってジュニア部は大切な役割を果たしていると指摘した。

担当補佐シェイラ・宮崎・デ・リーマ講師の講話では、子供会、ジュニア部、青年会が団結すること、そして年代にあわせてそれぞれの会を経験することの大切さや、ジュニアを対象にした活動で生長の家のみ教えを正しく実践する方法が説かれた。

もう一人の担当補佐のカイオ・タカオ・シマダ光明実践委員の講話では、ジュニア部の集まりで異なるタイプの青少年に対してどのような態度で接すべきかが伝えられ

た。講話の後にグループディスカッションの時間があり、各グループには、ある問題を抱えたジュニアがいることを想定したテーマが与えられ、その問題の最善の解決法について話し合いが行われた。

ワークショップでは、参加者がチームワークの大切さを理解するために、そして親睦を深めるために、様々なゲーム等が行われ、これらのゲーム等は誌友会で活用される。

結語で、高橋信次本部講師は、善を行う青年を育成するには、我々が率先してお手本を見せる必要がある、そのためには、生長の家を常に学び、み教えを日常生活で実践しなければならないと強調した。

研修会は終始明るく打ち解けた雰囲気で行われた。参加者はこの偉大な運動を推進する意欲をもって、そして人類の将来を担う青年を育成するという責任を胸に、それぞれの教化支部への帰路についた。

セントラル第2 - 日語青年部・ジュニア部の活動

(Mogi das Cruzes 支部)

去る5月22日、セントラル第2教化支部の青年部は、芝宏美講師の指導のもとで、「あなたに内在する愛を表現する」をテーマに「家族見真会」が開催された。



青年部・副部長ビニシオス・前田氏が体験談を行い、生長の家の真理をしっかりとから人生が好転したことを話した。

レジス・ヨシオ・シマノエ光明実践委は「家庭の中での愛の実践」、「実相円満行の説明と実修」、エンリッケ・久保講師は「愛をもって相手を赦し、自分も赦す」についてそれぞれの指導者は講話を行った。

コーラスの発表、ダンス、その他、盛り沢山のプログラムが用意され、ジャバクアラ青年部からも参加があり、計120名の参加者で見真会は大盛会であった。

セントラル第2教化支部の日語青年・ジュニア部は去る、6月12日“恋人の日”にふさわしいテーマ“魂の半身”で誌友会を開催した。指導に当たったライムンド・



は自身の体験を通して魂の半身との出会いについて話した。誌友会の閉会の挨拶で青年部・部長デニゼ・藤田は「愛はすべてを補い、幸福に

アルメイダ・アルベス講師は、良い魂の半身との出会いがある為には、心の持ち方が大切であると強調した。ライムンド講師

なるためにただ半身を見つけるだけではなく、天地すべてのものに愛をもって接することが大切だ」と締めくくった。

あたら
『新しいチャンスするとき』

たにぐちせいちょうせんせいちよ
谷口清超先生著



ゆる たいせつ
赦すことの大切さ

しゅじんこう ところ
主人公の心
(01)

この人生では色々な事件が起る。しかしそれは決して偶然に起るのではなく、それ相当の原因⁽⁰²⁾があつて起る結果である。⁽⁰³⁾ そうでなければ、人は安心して生活^{ひと あんしん せいかつ}をすることが出来ないだろう。どんな家庭に生まれて来るか、男に生まれるか、女に生まれるか、それも全て偶然^{すべて ぐうぜん}ということになるならば、誰かから迫害^{だれ かくがい}されたり、ののしられ⁽⁰⁴⁾たり、差別^{さべつ}されたりするのも偶然だし、大学^{だいがく}の入学も落第^{にゅうがく らくだい}も、就職^{しゅうしょく}や結婚^{けっこん}も、みな偶然だと見なされる。するとこの人生では、まるで風に吹かれた木の葉のように、池に舞い落ちたり、泥沼^{どろぬま}に落ちたり、拾^{ひろ}われたり捨てられたりして当り前^{あた まえ}ということになるだろう。しかし本当^{ほんとう}は幾つかの原因^{げんいん}が組みあ^あ合^あわさ^わつて、ある結果^{けっか}が出てくるのだ。この原因群^{げんいん ぐん}の中の補助^{ほじょ}的^{てき}なものを「助因^{じょいん}」(補助原因^{ほじょ げんいん})⁽⁰⁷⁾ と言い、縁^{えん}とも呼び、「因^{いん}・縁^{えん}・果^{くわ}の法則^{ほうそく}」⁽⁰⁷⁾ と言うのである。

しかも人が人生の“主人公”である

ためには、人の「心」が因であり、その心^{こころ}が色々^{いろいろ}の縁^{えん}にふれて果^{くわ}を生^{しょう}ずるという法則^{ほうそく}がなくてはならない。その縁⁽⁰⁸⁾の中には物質^{ぶつしつてき}的なものも含まれて来るし、前世^{ぜんせい}からの業^{ごう} (行為^{こうい}の集積^{しゅうせき})⁽⁰⁹⁾ も関与^{かんよ}してくるのだ。けれども主人公^{しゅじんこう}が人間の「心」^{こころ}である以上、かならずその問題^{もんだい}は心^{こころ}の変化^{へんか}によって解決^{かいけつ}できる^{でき}のであり、その意味^{いみ}において人生^{じんせい}の主人公^{しゅじんこう}は「心」^{こころ}だということが出来るのである。

さて平成十年五月十五日の『産経新聞』の投書欄^{しんぶん とうしょらん}に、埼玉県朝霞市^{さいたまけんあさか し}に住む田中利夫^{たなか としお}さんの、次のような一文^{いちぶん}があつた。

『わが家の前は小学校の通学路⁽¹¹⁾。一年中、半ズボンにTシャツの子がいるかと思えば、新学期⁽¹³⁾を迎えて汗ばむような日でもダウンジャケットに長ズボンの子がいたりもする。共通⁽¹⁴⁾しているのは、どの子ども世⁽¹⁵⁾にいうブランド品^{ひん ぴん}を身につけていることです。

先日^{せんじつ}のこと、わが家の玄関^{げんかんとくち}口にランドセル^{な だ}を投げ出し、小学三、四年^{しょうがく ねん}の男の子^{おとこ こ}数人^{すうにん}が何やらひそひそ話^{はなし}をしていた。聞き⁽¹⁶⁾耳^{みみ}を立てたが、笑い声^{わら ぎ}が聞こえるだけで、

詳しい内容は分からなかった。

そのうち、別の数人のグループが通りかかると、中にいた一人に「おい、トッカヒン！」と呼びかけた。呼ばれた子はふくれっ面⁽¹⁷⁾で走り去ったが、男の子たちは大声で「あいつの着てるもの、スーパーのトッカヒンばかりだぜ」と笑いながら後を追った。「安物、待てっ」とも言っていた。どうやら子供同士でなく、一部の母親が話し合っていることを子供たちが聞きつけたらしい。

有名ブランドが何だ！

負けるな特価品⁽¹⁸⁾くん！

(自由業)』

赦すことの大仕事

トッカヒンとののしられた子供は大変気の毒だ。私も家内も、よく特価品を使っている。それは決して悪いものでもなく、多少流行⁽¹⁹⁾おくれでも、良い製品はいくらでもある。そもそも流行⁽¹⁹⁾などというものは、売る側が勝手にこしらえたり、はやらせたりするのであって、使う人間の人格⁽²⁰⁾や価値には関係がない。ブランド商品がよいとも限らない。これらは時に見栄⁽²¹⁾であったり、追随心⁽²²⁾の塊⁽²²⁾だったりするだけである。それを子供達⁽²²⁾が（誰かに教えられて）問題にし、その偏見⁽²³⁾でもっていじめをやるというのはとんでもないことだ。そんな迫害⁽²³⁾を受けてへこたれてはならない。そしてその

ような無知⁽²⁴⁾と迷妄⁽²⁵⁾に腹を立てて、ムクレたり、恨んだりしないだけの心の訓練⁽²⁴⁾をしておく必要がある。

それには、人間は、「神の子」であり、本来皆すばらしい主人公⁽²⁶⁾であり、肉体やその上の衣服⁽²⁶⁾や外見⁽²⁶⁾は、単なる道具⁽²⁶⁾であり、付属品⁽²⁷⁾であるということを、幼いころからよく教えておく必要がある。その上で、この無知なる人々をも“許す心”を訓練することだ。赦しは中々難しいかもしれないが、作家の曾野綾子⁽²⁸⁾さんが平成十年四月十九日の『毎日新聞』に寄せられた論文⁽²⁸⁾で、こんな文章⁽²⁸⁾を書いておられた。その一部を引用⁽²⁹⁾すると、『(前略)私が若い時に許しに関して決定的なショック⁽²⁹⁾を受けたのは、1936年のスペイン内戦⁽³⁰⁾によって夫を殺された妻の話⁽³⁰⁾を聞いた時である。彼女は悲しみの中で、残された子供⁽³⁰⁾たちに言った。

「私たちはお父さまを殺した人を許すことを、生涯の仕事⁽³¹⁾にしなければならないのよ」

そのたくさんの子供たちのうちの一人⁽³¹⁾が、その後カトリックの神父⁽³¹⁾になって日本⁽³¹⁾に来た。

私の知人の女性⁽³²⁾は、20歳⁽³²⁾になった医学生⁽³²⁾の一人息子⁽³²⁾を、彼の親友⁽³²⁾が運転する車の事故⁽³²⁾で失った。知らせを受けて、事故現場⁽³²⁾に近い警察⁽³²⁾まで駆けつけた時、警察は初め遺体⁽³²⁾に合わせるのも、運転⁽³²⁾をしていた青年⁽³²⁾の親⁽³²⁾に合わせるのもためらったという。遺体⁽³²⁾の損傷⁽³²⁾がひどかったのと、もしかする

と憎しみの対象になりかねない立場の人と接触させることを恐れたのだろう。

しかし彼女自身も医師であった。そして彼女は——その途中でどれほどの心理の困難を乗り越えたか他人の私は憶測することさえ非礼に当たるような気がするのだが——その時事故死したすべての青年たちの親は、加害者・被害者の立場を超えて同じ悲しみを味わった人として受け止めていた。私はこの女医には将来遠く貧しい僻地で、死を覚悟して医師として働いてください、と言っている。(後略)』

そしてこの後の文章の冒頭に、『許しは、大きな人生の仕事である』と記されていた。たしかに許し(赦し)は人生最大の大事であり、善行の最たるものであると言えよう。

誰のせいだろうか

平成十年五月の練成会で、Rさんという二十一歳の娘さんが、次のような話をして下さったことがあった。本人の希望によって匿名匿住所にしておくが、彼女は十六歳の時、家庭が嫌でたまらなくなり、家を飛び出した。そうしてその時知り合った男性(A)と、ただ家に帰りたくないというだけの理由で、出会った日から一緒に暮らしはじめたのだ。どうしてRさんがそんなに家を嫌ったのかというと、昔から父

が身体が弱く、病院を出たり入ったりし続けていた。ところがそんな身体でいながら、毎日お酒ばかり飲んで、又病院に入るといった繰り返しだったからだ。母も娘も、みな父の身体を心配して、

「お父さん、お酒をやめて！」

と何回も頼んだが、父はその言葉をちっとも聞いてくれず、毎日酒びたりに、さらに入退院を繰り返すばかりだった。そんな生活を送っているうちに、何故父はこんなに頼んでも聞いてくれないんだろう、と不思議に思い始め、

「お父さんは、私達のことなんか、どうでもいいんだ。私達を愛していないから、こんなに頼んでも、こんなに毎日辛い思いをしても、平気なんだ」

と思うようになってしまった。そこでこんなに家の中が面白くないのも、家族がこんなにバラバラになったのも、皆お父さんのせいだ、と心の中で父を審き憎みはじめたのであった。これだけを聞いていると、彼女の家出とその後の悲劇的事件は、「父のせいだ」ということになるだろうが、しかし世の中にはそんなに父が酒びたりの生活にもかかわらず、家出をせず、何とかして父や母の和解し合った生活を送りたいと努力している人々もいるのである。

だからやはり彼女の家出は、そのころの彼女の心に主な原因があり、その助因として父の病気や酒や、その他もろもろの

図塚

できごと 出来事があったと想像される。そしてRさんは「こんな家を早く出たい。こんな親に頼らずに、家を出て、一人で生きて行くんだ」と考えるようになった。

こうして彼女は好きでもない男性(A)と一緒に暮らし始め、二年ほど同棲したが、彼が暴力をふるい、毎日バクチばかりを打っている生活に耐えられず、二年たつ

た時遂にRさんは彼の所から逃げ出した。けれども行くあてがない。仕方なく一たん父母の家に帰ったが、帰って見ると事態は一層悪化して、父の酒量は前よりだいぶ増えていた。毎日、朝から晩まで酒を飲んでいる父の姿を見ていると、Rさんは又々腹が立ってたまらなくなった。父と会っても、無視したり、罵ったりしたのだ。

- (01) 主人公 o protagonista (02) 偶然 accidentalmente, por acaso (03) それ相当の原因 uma causa justa (04) 迫害 ser perseguido (05) ののしる insultar (06) 泥沼 pântano
- (07) 補助原因 causas suplementares (08) 果を生ずる dar frutos
- (09) 行為の集積 acúmulo de ações (10) 関与 ter relações (11) 一文 parágrafo
- (12) 通学路 caminho para a escola (13) 新学期 novo semestre (14) 汗ばむ transpirar (pouco)
- (15) ブランド品 artigo de marca (16) 聞き耳をたて apurar os ouvidos
- (17) ふくれっ面 cara carrancuda (18) 特価品 artigos de saldo, pechincha
- (19) 多少流行おくれ um pouco fora de moda (20) 人格 personalidade, caráter (21) 見栄 vaidade
- (22) 追随心の塊 fetiche de consumo (23) 偏見 preconceito (24) 無知 ignorância
- (25) 迷妄 ilusão (26) 外見 aparência (27) 付属品 acessórios (28) 論文 artigo, texto
- (29) 引用 citar (30) 決定的なシヨック um choque marcante (31) 医学生 estudante de medicina
- (32) 損傷 danificação (33) 憎しみの対象 alvo de ódio, rancor (34) 憶測する supor, imaginar
- (35) 非礼 descortesia (36) 加害者 o culpado (37) 被害者 a vítima (38) 女医 médica
- (39) 僻地 lugar remoto (40) 冒頭 cabeçalho (41) 匿住所 não divulgar o endereço
- (42) 酒びたり ficar bêbado (43) 審き julgar (44) 悲劇的事件 um caso trágico
- (45) 同棲 casal com união estável sem vínculo civil (46) 暴力をふるう usar da violência
- (47) 酒量 quantidade de bebida alcoolica (48) 無視 ignorar (49) 罵ったり insultar

05/09/2011 ~ 21/09/2011

えん かん きょうりよくしゃ ほう めい
円環ご協力者ご芳名

たんい
 (単位・レアイス)

せいし 聖市 1	さかもと きみえ さま 坂本君枝 様	50,00
A B C サン・カエタノ	そう かくかい さま 相・白会様	100,00
パラ	うえおか なおあき さま 上岡尚昭 様	200,00
ソロカバナ 1	にし かずお さま 西一夫 様	200,00
パラナ 1 (7月分)	ふるさわ てつお さま 古沢哲男 様	20,00
々 (8月分)	ふるさわ てつお さま 古沢哲男 様	20,00
みなみ しゅう 南マ州 2	きょうかし ぶ さま 教化支部 様	300,00

せいし 聖市 2	そう かくかい さま コチア相・白会 様	250,00
せいし 聖市 2	しげまつ とみこ さま 重松富子 様	30,00
パウリスタ 1	そう しろかい さま ツッパン相・白会 様	200,00
せいし 聖市 6	もりもと よしもり あつこ さま 森本義盛 / 敦子 様	400,00
せいし 聖市 6	そう しろかい さま --ジャ・サンタ・マリア相・白会 様	300,00
せいし 聖市 1	よこやま さま 横山 ジョン 様	350,00

かくきょうかし ぶ また おお かいいん みなさま えんかん ほうし いただ まこと
 各教化支部、又多くの会員の皆様から円環へのご芳志を頂き、誠にありがとうございます。
 ころ かんしゃもう あ
 す。心より感謝申し上げます。

えんかん がつごう えんかん きょうりよくしゃ ほうめい せいし 2 かくしゃきー そう かくかい さま きさい
 円環 10月号の「円環ご協力者ご芳名」に、聖市 2 カシャキー相・白会様と記載されていましたが、ただ
 しくは せいし 2 かしんぎー そう かくかい さま めいわく ていせい わ もう あ
 しくは 聖市 2 カシンギー相・白会様でした。ご迷惑をおかけしました。訂正してお詫び申し上げます。

ち ほうだよ
地方便り



だい きょうかし ぶ かぞくさか こうえんかい おの であ
 パウリスタ 第 1 教化支部一 Tupã で「家族栄える講演会」が、小野寺フェルナンド
 こうし そうあいかいふくかいちょう まつざきと み こ こうし し どう ねん がつ にち かいさい
 講師 (相愛会副会長)、松崎富美子講師の指導により、2010 年 8 月 28 日に開催され
 た。参加者数は 143 名。

生長の家 塩椎の会俳壇

牛馬死す毒薬とるも牧手入れ 瀬瀬喜月
暮を困む相手の欲しき日永かな
猫好きで仔猫を捨てず皆飼ふと

曾孫三人親子四代父の日 仲宗根朝春
原爆忌放射能事故の怖さかな
猫の恋夜更け明け方さわがしい

老いて迄女の夜濯ぎ止められず 立川 ゆう
世知辛く忘れが先に立つ仕末
病院の看護師詩吟口ずさむ

三八度陽炎燃える日本思ふ 坂本 君枝
八年目母となる姪涙して
東北の泣き泣き山車引く夏祭り

留守庭に生き々と咲くシンビジウム 村松 里乃
芽柳の川に尾を引きすいと
桜見し逝きし夫と花見旅

にらみ合ひ叩き合ひする猫の恋 荒巻 重乃
原爆の悲惨な写真長崎で
原爆後今日も父ちゃん生きている

桃の花咲きにおう朝母となり 城 良子
原爆忌平和を叫ぶ声高し
素心花の白くもえ咲く並木道

四温晴誘われ楽し出で湯旅 矢島みどり
世事はなれ手足伸して湯船かな
快適な高速道路やイツペ咲き

満開の素心花並木歩をゆるめ 身吉 尚子
放射能の災害いつまで原爆忌
長閑やいつまで続く長電話

父の日や父を敬まう子等四人 木村都由子
旅宿に味つけぬ一夜春蚊鳴く
女兒誕生桃子と名づけ桃の花

ガブージに閉じこめられし猫の恋 香山 和栄
震災の瓦礫押しつけ地虫出づ
父の日の花園となる墓苑かな

素心花の白の清しき並木路 湯田南山子
父の日や父らしき事なにもせず
雨樋を滑り落ちたる浮れ猫

爽やかな青空一点曇りなく 森西 茂行
天の川秋の夜空に寒々と
天の川宇宙の神秘を語りおり

イペーの花黄金まとひ春歌ふ 大沢 晴子
桃の節句歌って踊って日系園児
ふくらみを見つけて嬉し猫やなぎ

ちほうたよ 地方便り



去る 2011 年 4 月 3 日、聖市第 1 教化支部講師会主催に
よって Apingorá Pesqueiro でピクニックをかねて講師会及び
勉強会を行った。全組織に呼びかけ、参加者数は 165 名。

へい わ しゅう かん 平和週間

ブラジル生長の家では、
2003年から「平和週間運動」
が全国で開始されてきた。9
月1日～7日の間に『平和
週間と環境』をスローガン
に本部を始め、各教化支部
で、講演会、普及誌の頒布、
感謝行（地域公園の清掃、社会



福祉センターの訪問又支援、
消防局の訪問) などが行われ、
信者の皆さん一人一人が丸
となって、一人でも多くの皆様
に真理の普及を行い、そして
感謝の気持ちを込めて環境、
社会に貢献している。

